



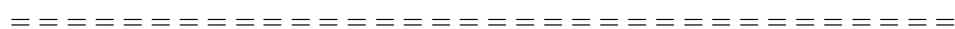
地域日本語支援ニュース こだま 第 338 号

2018.5.10



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。



■「AJALT 公開講座」のお知らせ■

◆◆来たる 7 月 20 日（金）四谷区民ホールにて開催！◆◆

「非常ベルは聞こえているか」

～在留外国人が日本で確かに生きていくために～

講師： 馳 浩氏（衆議院議員）

日時： 2018 年 7 月 20 日（金） 19:00－21:00（開場 18:15）

会場： 新宿区立 四谷区民ホール 東京都新宿区内藤町 87 番地

<https://shinjuku.hall-info.jp/state.html>

定員： 300 名（要申込・先着順）

料金： 前売り 2,000 円（当日：2,500 円） ※ 税込

主催： 公益社団法人 国際日本語普及協会（AJALT）

後援： 新宿区

一般財団法人 自治体国際化協会（CLAIR/クレア）

公益社団法人 日本語教育学会（50 音順）

今年度の「AJALT 公開講座」は、7 月 20 日（金）19:00 より、東京は新宿区の四谷区民ホールで開催します。テーマは、在留外国人が日本で確かに生きていくために必要な「日本語教育」についてです。今なぜ改めて日本語教育なのでしょう。

.....

◆いま、日本語教育を切に必要としている人たちがいます

月に2回、真夜中にパソコンにひっそりと届くメールマガジン「こだま」。夜が明けてメールを開くと、在留外国人の方が書かれた、胸に迫る記事が目に飛び込んでくることがあります。

「国はどこですか？ ～難民として生きるということ～」を書いたカディザ・ベゴムさん（2016.10.13 配信 305 号）は、「難民であってもみんなと同じように笑い、食べ、喜ぶ、悲しむ、夢を持つ人間であることを皆に知らせなければならないと強く思います。それができるようになるために一番大事なのは、教育を受けることだと思います」と記していました。

また、来日当時、教育で挫折を味わったことを「中2のカルロス」として書いた上村カルロスさん（2018.2.22 配信 334 号）は、「25年経過した今ではどうでしょうか？きっと今も、これからも、まだまだカルロスの様に、中2のホセ君や小6のマリアちゃん、小2のロベルト君など他の子どもたちも、親が余裕の無い心境の中で来日していると思います」と危惧しています。

日本語教育は、彼らがこの国で確かに生きていくための要であり、いま切に必要とされているものです。

◆日本語教育は大きな転換期を迎えつつあります

日本語教育をめぐるのは、課題が山積しているにもかかわらず、それら全体を指導・監督する担当官庁がありません。

そこで2016年11月、超党派の国会議員によって「日本語教育推進議員連盟」（会長：河村建夫衆議院議員）が結成されました。まず、国としての日本語教育の長期的なビジョンを示し、所轄官庁を定めたうえで、日本語教育の推進事業に法的根拠を与えようとするものです。

発足以来、度重なるヒアリングを経て、「日本語教育推進基本法」が現在、着々と準備されている段階です。

日本語教育にとって大きな転換点となる、この立法化の動きを注視していく必要があります。

◆講師の馳氏は多彩な経歴をもつ心熱き政治家

今年度の AJALT 公開講座は、まさに時宜にかなった講師をお呼びしました。同議員連盟の推進役として中心的な役割を果たしている、事務局長の馳浩（はせひろし）衆議院議員（元文部科学大臣）です。

馳氏は多彩な経歴の持ち主で、母校、星稜高校の国語（古典）教師、オリンピック選手からプロレスラーへ転身、その後、国会議員として夜間中学の国籍や年齢条項の撤廃、そしていじめの問題など、社会的弱者の立場からさまざまな課題に取り組んでこられました。

公開講座では、いま動き出した国の日本語教育施策について、教育に対する熱い想いも交えて語っていただきます。

在留外国人数 223 万人（平成 27 年末現在）。日本の各地で、少子高齢化のこの国を支えてくれている人びとでもあります。彼らと「ともに生きる」ため、私たちはどうすべきなのか、日本語教育関係者のみならず、多くの方とともに考える機会になれば幸いです。

ぜひ多くの方に足を運んでいただきたく、よろしくお願いいたします。

7 月 20 日、会場でお待ち申し上げております。

（AJALT 公開講座担当委員 大上、池田）
